

信頼と尊敬

2025. 11. 19

一流のリーダーとはどんな人か。むずかしい質問である。民間会社など一般社会のことが、そのまま教育界にあてはまるわけではない。だが、大いに参考にはなる。教育界にもリーダーは必要である。

たぶん、リーダーや指導者というと、一般的には、その人にすべてを求めるのではなかろうか。スポーツの指導者で考えてみる。人柄がよく、気遣いができ、人格者だとする。だが、思いの外、チームは勝たない。

一方、お世辞にも人柄がいいとは言えないし、自分勝手な面もある。ところが、チームは勝つ。その競技における専門性というか、勝負勘がよかったりする。

前者のような指導者のほうが評判はよいだろう。後者のような指導者は評判はよくないが、結果を残す。果たして、どちらの指導者のほうがよいのだろうか。それは、選手が求めるレベルにもよる。全国大会優勝を目指すような選手は、後者のタイプのほうがよいかもしれない。反対に、そこまで高いレベルを求めないのであれば、前者のタイプのほうがよいかもしれない。

後者のタイプは、専門性と勝負勘だけでチームを勝たせているわけではない場合が多い。実は、人を使えるのである。自分に才能がない、足りない部分を人にやってもらっているのである。それは、コーチだったり、保護者会だったり、OB会だったりする。才能は補完が可能である。ただし、あの人のためならやるしかないかと思わせるだけのカリスマ性のようなものが必要となる。

全国大会で優勝するようなチームは、絶対的な指導者を頂点にして、巨大な組織で動いている場合が多い。全体が、一つのチームのようなものである。自分にはない部分、足りない面を補うために人を使える指導者が結果を残していくのかもしれない。何でも、あれもこれもと自分でがんばってしまう指導者には、意外と結果がついてこない場合がある。このへんがむずかしい。人を使えることも才能である。

才能は補完できる。だが、補完できないものもある。それは、徳である。徳は本人固有の資質であり、代替不可能である。だから、指導者たるもの徳を積みなければならない。自ら徳を磨かなければならない。

人間力とは、信頼と尊敬の合計値である。その指導者を信頼できるか。尊敬できるか。一流のリーダーや指導者は、顔で人を導く。顔、すなわち徳であり人間力である。